

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドウィッシュしんでん		
○保護者評価実施期間	2026年 6月 1日 ～ 2026年 6月 30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14 (回答者数)	13
○従業者評価実施期間	2026年 6月 1日 ～ 2026年 6月 10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 7月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用時の様子を毎回詳しく共有しており、LINEでも保護者の気になる点に対応していることから、家族との情報連携を行っています。また、家庭内での理解や関与を促す働きかけも実施しています。	日々の利用状況を詳細に伝えるだけでなく、LINEなどのツールを活用してタイムリーに相談対応を行っている点は、保護者が不安を抱えたままにしない仕組みとして機能しています。また、家族間への説明や関係調整にも配慮していることがうかがえます。	研修会や支援方針の説明会など、事業所全体の支援内容や専門性を共有する機会を定期的に設けることで、家族の理解がより深まり、安心感や信頼性の向上につながると考えられます。
2	定期面談に限らず、必要に応じた柔軟な支援を行っています。	定期的な枠に縛られず、相談があったタイミングで個別に対応する体制を取っている点は、利用者や家族の実情に即した支援として機能しています。また、日常的なコミュニケーションを通じて小さな変化にも対応している可能性があります。	相談内容や対応履歴を整理し、共通課題や支援方針としてフィードバックする仕組みを整えることで、個別対応の質を維持しながら支援の一貫性や再現性を高めることができます。
3	活動スペースが内容や人数によって調整している点や、プログラムが固定化されすぎていない点から、柔軟な運営を行っています。	利用者の状況やその日の人数に応じて活動内容やスペースを調整し、無理のない形で活動が成立するよう工夫していると考えられます。また、一定期間ごとに同じ活動サイクルを回すなど、安定と変化のバランスを意識しています。	活動のねらいや支援効果（例：どのような力が育っているか）を見える化し、サイクルの妥当性を定期的に検証することで、活動の意味づけがより明確になり、支援の質向上につながります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援内容・訓練の全体像が利用者・家族に十分共有されていないことです。	・支援の実施は行われていても、目的や体系が説明されていない ・情報提供が日々の個別連絡中心で、全体像（年間計画・支援方針）が見えにくい ・専門用語や支援概念（共感的支援など）の説明機会が不足している可能性	・年間の支援計画・研修・訓練内容を「見える化」した資料の作成 ・保護者向け説明会や定期報告会の実施 ・専門用語をかみ砕いた説明資料（例：支援のねらい一覧）の整備 ・個別連絡と合わせて「全体像を伝える定期通信」の導入
2	支援の計画性・プログラムの意図がやや不明確に感じられることです。	・活動は柔軟に実施されているが、「ねらい（目的）」の説明が不足 ・同じ活動サイクルの意図（発達支援・習得過程など）が共有されていない ・活動評価（できるようになったこと等）がフィードバックされていない可能性	・活動ごとの「ねらい」「育つ力」を明文化して共有 ・定期的な振り返り（例：できるようになったことの報告）を実施 ・活動サイクルの根拠を説明する資料化（なぜ繰り返すのか等） ・本人のモチベーションにつながるフィードバックの強化
3	支援の関わり方や質の評価基準が利用者側に伝わっていないです。	・支援の「姿勢」や「価値観」（例：共感的支援）が言語化されていない ・スタッフの対応は良いが、支援理念として体系的に伝えていない ・評価基準（どのような支援を目指しているか）が共有不足	・「事業所として大切にしている支援の考え方」の明文化 ・職員研修内容の一部公開（どんな視点で関わっているか） ・支援の具体例を用いた説明（例：共感的対応とは何かの事例提示） ・保護者と一緒に支援の振り返りを行う仕組みづくり